

大英博物館に沖縄の焼物 2 作品 八重山の海イメージさせる「石垣焼窯元」

2017年11月11日 06:32

伝統工芸

シェア 184

Tweet

B! 0

G+

イギリスの大英博物館にこのほど、沖縄県石垣市名蔵の「石垣焼窯元」当主・金子晴彦さん（56）の作品「耀変玳瑁天目（ようへんたいひてんもく）茶碗」と「碧海油滴天目（へきかいゆてきてんもく）茶碗」が収蔵された。沖縄県内陶芸家の作品が、世界最大級の博物館に収蔵されるのは名護市の仲村勇さんに続き 2 人目。金子さんは「2 点の収蔵は珍しく、世界一の美術館に認められて大変名誉。作品を通して八重山、沖縄の海や自然を P R したい」と喜びを語った。

福岡県出身の金子さんは約 19 年前に石垣島へ移住。作品はガラスと陶器を融合させ、八重山の鉱石で沖縄の海をイメージさせる鮮やかな青を発色させるのが特徴。2014 年 12 月に大英博物館で関係者に作品を見せた際に気に入られたといい、約 2 年の審査を経て 9 月 20 日に収蔵された。

「耀変一」は 10 年の制作で、茶色の器に光を当てると宝石をちりばめたような虹色の光沢を帯びるのが特徴。「碧海一」は 15 年に千年前の技法や釉薬（ゆうやく）などを再現して制作し、光の角度によって銀色が赤などに変化するなど、鉄本来の色合いを出した。

金子さんは昨年 11 月に陶芸専門のヨーク美術館（イギリス）に別作品が収蔵されたことなども含め、「総合的に評価された」と説明。大英博物館側から形や重さ、口当たりなど「全て最高」と評されたという。



大英博物館に収蔵された金子晴彦さん制作の「耀変玳瑁天目茶碗」（左）と「碧海油滴天目茶碗」



大英博物館に 2 作品が収蔵された「石垣焼窯元」当主の金子晴彦さん

<https://ryukyushimpo.jp/news/entry-611140.html>

琉球新報

English お知らせ

トップ 写真・動画 特集 社説・コラム 人事・訃報 イベント 今日のニュース 電子新聞 検索

主要 政治 経済 社会 国際 スポーツ 地域 暮らし 芸能・文化 教育 エンタメ

芸能・文化

大英博物館に沖縄陶芸 金子さん作品「八重山、世界へ P R」

2017年11月10日 07:30

大英博物館 石垣焼 金子晴彦 耀変玳瑁天目 碧海油滴天目茶碗

いいね! 0

シェア

B! 1

ツイート

G+

共有する

【石垣】世界最大級の博物館である英国の大英博物館にこのほど、石垣市名蔵の石垣焼窯元当主の金子晴彦さん（56）が制作した「耀変玳瑁（ようへんてんび）天目（茶碗）」と「碧海油滴（へきかいゆてき）天目茶碗」が収蔵された。同博物館に作品が収蔵された県内の陶芸家は、名護市の仲村勇さんに続き 2 人目。



大英博物館に収蔵された「耀変玳瑁天目（茶碗）」（左）と「碧海油滴天目茶碗」（石垣焼窯元提供）

「耀変一」は 2010 年に制作した作品で、器に宝石をちりばめたように光を受けると虹色の光彩を放つ。「碧海一」は千年前の技法を再現したうわぐすりを使用した作品で、鉄本来の風合いがにじみ出ているのが特徴だ。

両作品ともガラスと陶器を融合させることで、沖縄の海を表現した鮮やかなグラデーションの青色が器の底で輝いている。9 月 20 日に収蔵された。

大英博物館への収蔵が「夢だった」という金子さんは「非常に名誉なこと。世界中から訪れる来館者に、石垣島や八重山を P R することができる」と喜びを語った。

「陶器とガラスを融合させた点などが評価されたと思う。新たなジャンルを切り開き、さらに良いものを作りたい」と表情を引き締め、創作意欲を燃やした。



金子晴彦さん

八重山毎日新聞
Yaoyama Mainichi

2017(平成29)年 11月16日(木曜日)

県内陶芸家で 2 人目 金子さん制作の 2 点収蔵

世界最大級の英博物館にこのほど、石垣市名蔵の石垣焼窯元代表の金子晴彦さん(56)が制作した「耀変玳瑁天目茶碗」と「碧海油滴天目茶碗」の 2 点が収蔵された。同博物館に作品が収蔵されたのは、名護市の仲村勇さんに続き 2 人目。9月20日に日本コーナーの展示室に収蔵された。同室は現在改修中で、展示は来年以降になる見込み。

「耀変一」は2010年の作品で、反射光が虹のよう

に彩を放つ。15年作の「碧海一」は1000年前の鉄釉の技法を再現した釉薬を使用し、器表面に浮かぶ斑点状の紋様の油滴が赤色から銀色に変わる。

このほど、大英博物館に収蔵された石垣焼の「耀変玳瑁天目茶碗」(左)と「碧海油滴天目茶碗」(石垣焼窯元提供)